西園小

学びに向かう力の育成

～「見通し」「対話」「振り返り」の学習過程を大切にした授業づくり～

（３年計画の２年次）

校長　　古　川　祐　行

１　研究主題について

(1) 教育目標具現化の立場から

本校では、教育目標に「めあてをもって生き生きと学ぶ子に」、努力目標に「進んで楽しく学ぶ」を掲げ、教育活動に取り組んでいる。今年度は学校目標を「共に高め合う西園っ子」とした。その具現化のために、課題解決に向けて共に考え、学習活動を振り返ることで身に付けた力を自覚したり、新たな課題を設定したりできる、「学びに向かう子」の育成を目指している。

(2) これまでの研究経過から

本校では昨年度から、研究主題を「学びに向かう力の育成」と設定した。「学びに向かう力」を、「見通しをもって学習に取り組む力」「他者との関わりの中で、自分の考えを広げたり深めたりする力」「学習活動を振り返って次につなげる力」ととらえ、授業実践に取り組んだ。

その結果、見通しをもたせることで課題が焦点化されたことや、対話する場を設定したことで自分の考えをもたせることができたこと、また、振り返りによって学習した内容を意識させたり次時への意欲付けが図られたりしたことが成果として挙げられた。

今年度も、昨年度の成果を生かしつつ、児童が自ら課題を発見し、問題解決に向かうための「見通し」をもたせる場、自分の考えを広げたり深めたりさせるための「対話」する場、身に付けた力や自己の学び方を意識させ、学ぶ意欲を喚起する「振り返り」の場を学習過程に位置付け、研究を展開していく。

２　研究のねらい

学習に対する見通しをもたせ、対話や振り返りを学習過程に位置付けた指導を工夫することで確かな学力の定着を図り、学びに向かう力を育成できることを、授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

「見通し」「対話」「振り返り」を意識した授業実践を行うことにより、児童一人一人の課題意識を喚起し、学ぶことのよさや意義を意識させることで、学びに向かう力を育成することができる。

４　研究内容

研究のねらいを達成するために、支持的雰囲気の学級づくりを基盤に、次の３つの内容について授業実践を通して明らかにする。

(1) 見通しをもって学習に取り組むための教材のしかけや発問の工夫
(2) 他者との関わりの中で、自分の考えを広げたり深めたりするための対話の場の工夫
(3) 学習活動を振り返るための視点の与え方の工夫

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者・題材名	概要
5	26	第１回授業研究（５学年　道徳科） 授業者　教諭　太田　麻木 題材名　心の管理人	導入で事前アンケートをもとに「自由」について考えさせたことで、教材と自分との間でギャップやずれが生じ、考えを深めることができた。
6	25	第２回授業研究（要請訪問　３学年　理科） 授業者　教諭　佐々木　柾斗 題材名　どれぐらい育ったかな 助言者　小野寺　良治　主任指導主事	既習事項を振り返り課題解決の土台を作ることで､見通しをもって取り組むことができた。身近な植物を教材としたことが意欲向上につながった。
6	30	第３回授業研究（２学年　算数科） 授業者　教諭　鮫ノ口　佳織 題材名　かさ	児童のつぶやきから長さの解き方と同じように単位を揃えて計算することを想起させることで、かさの計算に見通しをもって取り組むことができた。
10	11	第４回授業研究（１学年　算数科） 授業者　教諭　木村　彩佳 題材名　かたちづくり	色板の提示の仕方やワークシートを工夫したことで、形だけでなく枚数にも意識を向けて「かたちづくり」の学習に意欲的に取り組むことができた。
11	10	第５回授業研究（２学年　国語科） 授業者　教諭　木村　真由美 題材名　馬のおもちゃの作り方	説明文の順序を入れ替えて提示する導入のしかけによって、文章を正しい順序にする必要感が生まれた。振り返りを３つの観点に絞って設定したことが効果的だった。

(2) 一般研修

月	日	研修内容
8	23	ＡＥＤ等を使用した救命講習（講師　日本赤十字救急指導員　小野　梨花子　先生） クロームブック活用研修会（講師　八戸市総合教育センター　石井一二三　主任指導主事）
10	14	特別支援教育研修会（講師　八戸学院短期大学　野口　和也　教授）
11	11	若手研修会（講師　八戸市教育委員会　教育指導課　福田　秀貴　主任指導主事）

６　研究の成果

(1) 見通しをもって学習に取り組むための課題提示や導入の工夫について

「導入部分にしかけを加える」､「既習事項を想起させて本時の課題解決の土台をつくる」､「児童のつぶやきから本時のめあてを設定する」ことにより、見通しがたち、必要感をもって学習に取り組ませることができた。

(2) 他者との関わりの中で、自分の考えを広げたり深めたりするための対話の場の工夫について

児童が「分からない」と感じたところで対話の場を設けることにより、自分の考えを広げたり深めたりすることができた。

(3) 学習活動を振り返るための視点の与え方の工夫について

本校独自の「振り返りの１０のポイント」を今年度も活用し、授業内容に沿って振り返る項目を精選して提示したことによって、多くの児童が考えたことを文章化しまとめることができた。

７　研究の課題

(1) 学年や教科に応じてよりよい手立てを構築するために、発問の仕方や導入の工夫をさらに行っていく。

(2) 対話の定義を明確にし、どの児童も対話に参加できる場づくりを工夫していく。

(3) 学習のまとめとして振り返りを行うだけでなく、次時への見通しをもたせることにつなげられるようにする。

（記入者　太田　麻木）